

## “ブギの女王” 笠置シヅ子特集 【“Queen of Boogie” Shizuko Kasagi】



今年秋から毎朝放送され話題となっているNHK連続テレビ小説『ブギウギ』のヒロインのモデルとなった笠置シヅ子。元々ジャズ歌手として売り出し、“スイングの女王”として活躍するが、戦争の影響で紆余曲折あり、ジャズ歌手としてのキャリアは断念せざるを得なかった。しかし、戦後になると、誰もが一度は耳にしているであろう「東京ブギウギ」が大ヒットし、一躍“ブギの女王”として絶大な人気を博した。

一方、その人生は波乱万丈ともいえ、生い立ちはNHK連続テレビ小説『ブギウギ』でも垣間見ることができる。敗戦で打ちひしがれた日本人の自信を回復させ、日本中を、日本中の人々を明るくしたその歌声と存在感は永遠。

今号の巻頭特集では、昭和の時代に大活躍した“ブギの女王”こと、偉大なるアーティスト&エンターテイナー、笠置シヅ子の魅力を伝えたい。

【文：加瀬正之】

写真提供：【笠置シヅ子資料室】  
クラック・スターズ・オーケストラ

### 【笠置シヅ子プロフィール】

本名は亀井静子。1914年（大正3年）8月25日生まれ。香川県大川郡相生村（旧引田町・現東かがわ市）出身。1927年、大阪松竹楽劇部（OSK日本歌劇団の前身）に入り、三笠静子の芸名で初舞台を踏む。その後、芸名を笠置シズ子と改め、作曲家・服部良一と組んでジャズ歌手として売り出すも、戦時中ゆえ、当局の指導によりたびたびの公演中止を余儀なくされる。1948年1月に発売した「東京ブギウギ」が大ヒット。“ブギの女王”と呼ばれたが、1955年に録音、翌1956年1月に発売した「たよりにしてまっせ」を最後に歌手を引退。その後は芸名を笠置シヅ子と改めて晩年まで芝居やテレビドラマなどで活躍した。1985年（昭和60年）3月30日、70歳で死去。2023年（令和5年）秋放送の「NHK連続テレビ小説『ブギウギ』」のヒロインのモデルとなった。

### 【NHK連続テレビ小説『ブギウギ』】

2023年10月2日より放送開始（月曜日～土曜日午前8時～8時15分／午後0時45分～1時（再放送）※土曜日は1週間を振り返り）。今から75年前、戦後日本の世の中、人々を楽しませ、励まし、生きる活力を与えた歌手・福来スズ子。歌で日本中をワクワクさせ、笑いと感動と涙で戦後を明るく照らしたスターの物語。「東京ブギウギ」で知られる歌手、笠置シヅ子がモデル。キャストは趣里、草彅剛、蒼井優、水川あさみ、柳葉敏郎、菊地凜子ほか。脚本は足立紳、櫻井剛、音楽は服部隆之、語りは高瀬耕造。

【NHK連続テレビ小説『ブギウギ』公式ウェブサイト】 <https://www.nhk.jp/p/boogie/ts/NLPVZY29/>



## 【笠置シヅ子の代表曲】

### 「東京フギウギ」

1947年12月にコロムビアから発売されたシングルレコード。作曲は服部良一、作詞は鈴木勝。日本映画「春の饗宴」の主題歌で、言わずと知れた笠置シヅ子の代表曲の一つ。米国でもColumbiaから笠置シヅ子ヴァージョンが発売。1955年には再録音し、セルフリメイクされている。

### 「ジャングル・フギ」

1948年11月にコロムビアから発売されたシングルレコード。作曲は服部良一、作詞は映画監督の黒澤明が担当。黒澤明監督の映画「酔いどれ天使」の劇中歌として使用された。笠置シヅ子もフギを歌う女として出演し、三船敏郎等が登場する酒場のシーンで歌とダンスを披露している。

### 「ホームラン・フギ」

1949年7月にコロムビアから発売されたシングルレコード。作曲は服部良一、作詞はサトウハチロー。1953年放送の「第3回NHK紅白歌合戦」で、笠置シヅ子はこの曲で紅組のトリを飾っている。2003年には吉田拓郎が「ホームラン・フギ2003」のタイトルでシングルカバーした。

### 「大島フギー」

1950年12月にコロムビアから発売されたシングルレコード。作曲は服部良一、作詞は藤浦洸。幻の音源となっていたが、2023年にSP盤が発見され、73年の時を越えて初配信が決定！この「大島フギー」を収録した配信アルバム『笠置シヅ子完全盤』は11月22日より配信がスタートした。

### 「たよりにしてまっせ」

1956年1月にコロムビアから発売されたシングルレコード。作曲は服部良一、作詞は吉田みなを、村雨まさを。歌手時代の笠置シヅ子の曲としては最後のオリジナル曲。CDデビュー前から歌っていた思い出深い曲として、KinKi Kidsのデビューアルバム「A album」にこの曲が収録されている。

## 【歌手と女優として】

### 【NHK紅白歌合戦】

笠置シヅ子は計4回出場。初登場は1952年の第2回で3番目に登場して「買物フギ」、1953年の第3回では紅組のトリとして「ホームラン・フギ」、1953年の第4回では6番目に登場して「東京フギウギ」、最後の出場となった1956年の第7回では大トリで「ヘイ・ヘイ・フギ」を披露している。

### 【映画】

1939年公開の「弥次喜多大陸道中」以降、「歌うエノケン捕物帳」（1948年公開）、「銀座カンカン娘」（1949年公開）、「ベコちゃんとデン助」（1950年公開）、「兄弟仁義 関東三兄弟」（1966年公開）、「スクラップ集団」（1968年公開）等、数々の映画作品にも出演した。

### 【テレビドラマ】

女優として、映画だけでなく、1960~1964年放送の「台風家族」、1966年放送の「渥美清の泣いてたまるか」、1967年放送の「白い巨塔」をはじめ、「意地悪ばあさん」「ザ・ガードマン」「プレイガール」「大岡越前」「なんたって18歳!」「水戸黄門」等、数々のテレビドラマにも出演した。

## 【生涯唯一の自伝】

### 「歌う自画像：私のフギウギ傳記」

1948年9月13日に北斗出版社より発行された笠置シヅ子唯一の自伝。幼少期から歌劇・帯劇時代、娘のエイ子氏が1歳の誕生日を迎えるまでの物語を笠置シヅ子が自ら記している。親交のあった服部良一、榎本健一等の「笠置シヅ子を語る」という寄稿も加えた著書。





## ★ジャズ歌手～“スイングの女王”として

大阪松竹楽劇部（OSK 日本歌劇団の前身）に入部し、三笠静子の芸名で初舞台を踏む。その後、芸名を笠置シズ子と改名し、作曲家・服部良一と組んでジャズ歌手として売り出す。松竹楽劇部を支えるべく歌い続けていたが、戦時中のため当局の指導により度々公演中止を余儀なくされるなど、持ち味のひとつであった“日本人離れ”もバッシングを受けることになる。“日本的ジャズ”の樹立を宣言するが、戦時中という不運もあり、“スイングの女王”時代は短期間で終わってしまう。

## ★スイングの女王”から“ブギの女王”へ

笠置シズ子が 27 歳の時、真珠湾攻撃で太平洋戦争が開戦し、当局による芸能界への締め付けは一層厳しくなった。服部良一の得意ジャンルは、当時“敵性音楽”と言われたジャズ系ポピュラー音楽だったため仕事が激減。1942 年には音楽における外来語の使用も禁止されることとなった。ちなみに、NHK 連続テレビ小説『ブギウギ』の第 9 週「カカシみたいなワテ」（41）でも触れられていたが、ピアノは「洋琴」、サクソスは「金属製品曲がり尺八」、コントラバスは「妖怪の四弦（ようかいてきしげん）」等と呼ぶよう強制された。そんな中、服部良一はアメリカで流行していた「Boogie Woogie Bugle Boy」の楽譜を手に入れ、作曲に取り入れて実験を繰り返した。やがて終戦を迎え、1947 年 9 月 10 日に日本コロムビアのスタ

写真提供：【笠置シズ子資料室】ジャングルの女王

ジオで「東京ブギ」（翌年「東京ブギウギ」に改名）がレコーディングされた。笠置シズ子が歌うこの曲は、敗戦で打ちひしがれた日本人の自信を回復させることとなり、大ヒットを記録。「東京ブギウギ」以降も、服部良一と笠置シズ子のコンビは「ホームラン・ブギ」「大阪ブギウギ」等、一連の“ブギもの”を次々とヒットさせ、いつしか笠置シズ子は“ブギの女王”と呼ばれるようになった。

## ★笠置シズ子から笠置シズ子へ

“ブギの女王”となり、芸能界で揺るぎない地位と人気を確立した笠置シズ子だったが、娯楽の中心として急速に発展した映画の波に乗って、歌手と並行しながら、女優として映画作品にも出演することになった。歌手としては、1950 年 6 月に服部良一と笠置シズ子はハワイの興行会社に招かれて、ハワイからアメリカ本土まで巡業し、ロスアンゼルスやニューヨークでも公演を行った。“ブギの女王”として一世を風靡したが、芸能界では次々と人気歌手が誕生し、1956 年の年末「第 7 回 NHK 紅白歌合戦」では大トリを務めたが、翌 1957 年早々に「歌手を廃業し、これからは女優業に専念したい」と公表。後年、歌手廃業の決断に至った理由を「自分が最も輝いた時代をそのままに残したい。それを自分の手で汚すことはできない。」と述べている。その後、「笠置シズ子」と改名して、女優活動に専念した。その引き際の良さは笠置シズ子ならではの、見事と言えるものだった。

## ★笠置シズ子とエラ・フィッツジェラルド

ジャズ歌手として売り出し、“スイングの女王”から、その後は“ブギの女王”と称されて人気を博した笠置シズ子。アメリカで“ジャズの女王”と称されて人気を博した代表的な女性シンガーと言えば、エラ・フィッツジェラルドだ。笠置シズ子は 1914 年 8 月 25 日生まれで、エラ・フィッツジェラルドは 1917 年 4 月 25 日生まれ。笠置シズ子が 3 つ先輩にあたる。共演歴こそないが、ほぼ同年代を生きた日米音楽界の女王 2 人。笠置シズ子は 1985 年 3 月 30 日に 70 歳でこの世を去り、エラ・フィッツジェラルドは 1996 年 6 月 15 日に 79 歳でこの世を去っている。もしこの女王 2 人の共演が実現していたら ... と夢を見てしまう。

# 笠置シヅ子 & 「ブギウギ」関連ティスコグラフィ

(ジャケット写真提供：コロムビア・クリエイティブ株式会社)



『笠置シヅ子完全盤』  
笠置シヅ子

配信限定 COKM-44671-3  
2023/11/22 配信

コロムビアからリリースした全音源、  
全 59 曲を集めた配信アルバム。



『東京ブギウギ Boogie Woogie Age Re-Edit & Remix』  
笠置シヅ子

配信限定 COKM-44645  
2023/10/11 配信

「東京ブギウギ Boogie Woogie Age」  
の Re-Edit と Remix 版シングル。



『笠置シヅ子の世界 東京ブギウギ』  
笠置シヅ子

CD アルバム COCP-42055-6  
2023/07/19 発売

笠置シヅ子が歌った「ブギ」と付く  
41 曲全てを収録したアルバム。



『東京ブギウギ100%』  
V/A

CD アルバム COCP-42181  
2024/01/24 発売

様々なアーティストによる「東京ブ  
ギウギ」のみを収録したコンピ作品。



『連続テレビ小説「ブギウギ」  
オリジナル・サウンドトラック Vol.1』  
V/A

CD アルバム COCP-42144  
2023/12/20 発売

主題歌「ハッピー☆ブギ」のインス  
トや BGM 等、29 曲を収録。



『福来スズ子傑作集』  
福来スズ子 (趣里)

CD アルバム COCP-42192  
2023/12/13 発売

「ブギウギ」主人公福来スズ子が歌  
う笠置シヅ子のカバー 6 曲を収録。



『ブギウギの時代 ベスト』  
V/A

CD アルバム COCP-42134  
2023/11/29 発売

昭和 10~20 年代のヒット曲を中心に  
集めたコンピレーションアルバム。



『ハッピー☆ブギ』  
中納良恵 さがいゆう  
趣里

CD シングル COCA-18160  
2023/11/15 発売

「ブギウギ」の主題歌として、音楽  
担当の服部隆之が手掛けた楽曲。



『ラッパと娘』  
福来スズ子 (趣里)

配信限定 COKM-44716  
2023/11/11 配信

『福来スズ子 傑作集』より先行配信  
された笠置シヅ子の名曲。

【笠置シヅ子 日本コロムビア公式サイト】

<https://columbia.jp/artist-info/kasagi/>

【「笠置シヅ子とブギウギの時代」特設ホームページ】

<https://columbia.jp/kasagi/>